

パーパス策定とサステナブル経営の歩み

[ホーム](#) > [サステナビリティ](#) > [サステナブル経営](#) > [パーパス策定とサステナブル経営の歩み](#)

パーパス（私たちの存在意義）の策定

中長期的な視点に立って当金庫のあるべき姿、世の中に提供できる価値や役割を再定義し、その実現に向けた具体的な目標を置いて実践していくことの重要性を踏まえ、当金庫は2050年に向けて社会に提供しうる価値＝パーパス（私たちの存在意義）を定めました。

「パーパス」の策定にあたっては、2020年に、理事長以下全役員出席によるワークショップを月1回のペースで開催しました。2050年の地球環境や社会の変化（メガトレンド）を予測したうえで、バックカスティングの思考に立ち、以下のプロセスで議論を行いました。議論の内容は、経営管理委員、当金庫の職員に共有し、意見交換やアンケートを通じて成案化に反映しました。

議論のプロセス

1. 環境・社会の中長期的変化（メガトレンド）を踏まえた、2050年の「未来感シナリオ」を共有
2. 「未来感シナリオ」が農林中央金庫の基盤やビジネス（農林水産業、投融資）に与える影響を予測
3. 2.に対し、当金庫が世の中に提供できる価値、求められる役割は何か＝「パーパス」を議論
4. 「パーパス」を踏まえ、2030年に達成すべきゴールを議論
5. 経営計画に反映（「農林中央金庫の目指す姿」の再整理）

サステナブル経営の歩み

当金庫は2019年度よりサステナブル経営を開始し、態勢整備や各種イニシアティブへの加盟を行いながら取組みを進めてきました。今後もステークホルダーのみなさまとともに取組みを進めてまいります。

2019年度～2023年度中期経営計画

	主な取組み	加盟・賛同イニシアティブ
2019 年度	■ サステナブル協議会設置 ■ 環境方針・人権方針制定 ■ 投融資における環境・社会への配慮にかかる取組方針制定	■ 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) ■ 気候変動イニシアティブ
2020 年度	■ ESGローン創設 ■ 環境・社会リスク管理体制構築	
2021 年度	■ パーパス制定 ■ チーフ・ダイバーシティ・オフィサー配置	■ UNEP FI ■ 責任銀行原則 (PRB) ■ 金融向け炭素会計パートナーシップ (PCAF)
2022 年度	■ チーフ・サステナビリティ・オフィサー配置 ■ サステナビリティ・アドバイザー・ボード設置 ■ 人権影響評価 (人権デューデリジェンス) 実施 ■ TNFDタスクフォースメンバー就任 ■ 2050年ネットゼロへのコミットメント公表 ■ ポートフォリオGHG排出量削減目標公表 < 融資 (電力)、投資 (株式・社債) >	■ Climate Action 100+ ■ AIGCC加盟 ■ インパクト志向金融宣言署名 ■ 経団連2030年30%へのチャレンジ
2023 年度	■ サステナブルビジネス推進体制強化 ■ Diversity & Inclusion Book発行 ■ Climate & Natureレポート2024発行 ■ ポートフォリオGHG排出量削減目標追加 < 融資 (石油・ガス、石炭、鉄鋼) >	■ 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) ■ 日本気候リーダーズ・パートナーシップ (JCLP) ■ 生物多様性のための30by30アライアンス ■ 金融向け生物多様性会計パートナーシップ (PBAF) ■ 企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)

2024年度～2030年度 中期ビジョン

2024 年度	■ インパクト評価モデルケース・ガイダンス策定を踏まえたIMM体制構築 ■ ポートフォリオGHG排出量削減目標追加 < 融資 (不動産、自動車、海運) >	■ サーキュラーパートナーズ
---------	--	--

地球環境・社会・経済へのインパクト創出

> (参考) イニシアティブへの参画

農林中央金庫の目指す姿

> こちらをご覧ください (農林中央金庫の目指す姿)